- にいがた青年海外協力隊を育てる会 会報紙 -
The News Letter of The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

なじらね.jp 秋

なじらね
どっとじぇーぴー

平成 23 (2011) 年 9 月 30 日 (金) 発行　- 第 6 号 -

［発行人］「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長　平山 征夫 ／ 事務局長　横山 容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA
［事務局］〒950-2012　新潟県新潟市西区小針台1-15　株式会社 アルファブライト 内
Tel. 025-234-1500 , Fax. 025-234-1002 , E-mail ; n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL　http://www.n-sojocv-najirane.com
［題 字］藤田 美枝子　（※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか？」の意味）
［編集人］広報文化専門委員会　山田 規央

The Supporting Organization of JOCV NIIGATA

- NAJIRANE Headline -

【巻頭言】　“なじらね. jp”第6号の発行に寄せて　・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
【壱】　平成23年度「にいがた青年海外協力隊を育てる会」総会を開催！　・・・ P2
【弐】　本県出身のJICAボランティアが任国へ赴任！
（平成22年度4次隊、平成23年度1次隊）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
【参】　JICAボランティア（派遣中、帰国隊員）からのメッセージ　・・・・・・・ P4-6
【四】　JICA X 新潟医療福祉大学大学院 連携
青年海外協力隊等プログラムのご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
【五】　2012年度カレンダー販売のご案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
【Information・他】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

公式ホームページ随時更新中！　Check！　http://n-sojocv-najirane.com

【巻頭言】“なじらね.jp” 第6号の発行に寄せて
～ 一歩一歩 ～

にいがた青年海外協力隊を育てる会 監事
平石 俊夫

今、日本は大変な大きな試練に直面しています。東日本大震災の復興、原発事故の未終息、超円高、財政危機等など多岐にわたり課題が山積しています。国家的大きな課題の解決には、個人的には祈ることが精一杯です。弥彦山山頂から見渡す蒲原平野は、国家の一大事をよそに、黄金色ののどかな広がりを見せ、長岡技術科学大学へ留学している三人の学生と一緒に眺めています。

彼らは電子情報技術を学ぶために日本を選び、信頼し、わざわざベトナムから長岡へやってきました。円高、物価高の長岡でどんな生活をしているのか、聞いてみました。生活費は三万円（内、住宅費一万円）。水道光熱費などを差引くと、食費にまわすお金は非常に限られています。もちろん、教科書など買えないので、全てコピーで済ましているという。本当に慎ましい生活が目に浮かびます。日本の文化を学び、四季折々の美しい日本を旅することなど、難しい状況です。希望に満ち、感受性の高い若者が、経済的事情で学園内だけで二年間を過ごすにはあまりにも勿体ない。いや、大きな損失と感じました。ささやかでも、日本、いや新潟の一端でも見て、感じて貰えたらということで、弥彦へ連れていきました。秋の深まりには、奥只見など紅葉狩りに連れ出そうと思っています。

現在の日本は最裕福国の一つでありながら、相対的貧困率がメキシコ、トルコ、アメリカに次ぐ、ワースト４位の高さとのことです。夢を持って日本で学んだ皆さんが自国に帰って、活躍するにあたって、日本を反面教師にしてはなりません。まさに、私たち考え方、生き様が問われています。

【壱】　平成23年度「にいがた青年海外協力隊を育てる会」総会を開催！

平成23年6月4日（土）15時より新潟会館において、下記のごとく3回目となる「にいがた青年海外協力隊を育てる会」総会が開催されました（※HP内で参考資料の閲覧ができます）。

【プログラム】

15:00－15:50　総会※
16:00－17:00　記念講演会　村山伸子氏（新潟医療福祉大学大学院教授）
17:15－18:15　帰国隊員報告会　2人のJICAボランティア経験者（JICA共催・公開型）
　　佐久間雅義さん（SV H20-4／タイ王国／製紙・パルプ）※
　　柳綾子さん（JOCV H19-4／ブルキナファソ共和国／看護師）※
18:30－20:30　懇親会（→右の写真）

【報告】

総会には約40名が出席、議事の内容は昨年度の活動報告及び決算報告、今年度の活動計画と予算を審議して頂きました。特に今年度は昨年から始めた県内の大学や小学校等への押しかけ出前講座の実施とライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチミスト等の経営者の組織の例会でのアピールを実施し、帰国者の就職と現職参加の理解を得たいと考えています。又、会長自ら県内の自治体首長との会談をし、協力隊事業の周知をしたいとの提案が出されました。

第2部では新潟医療福祉大学大学院教授の村山伸子氏に「海外でのフィールドワークと大学院教育」と題し、自らの海外での活動体験を混じえながら、これからの大学院教育について講演して頂きました。特に村山氏は青年海外協力隊事業と大学院を連携し、協力隊に参加しながら学位を取得できるようなプログラムを、全国の大学院としては初の取り組みとして新潟医療福祉大学大学院に設けるべく奔走されています。協力隊経験を学術的に活用し、隊員の新たな道を開拓する上でとても興味深い取り組みであり、我々も大学側との連携を進めて参りたいと思います。

第3部はJICAとの共催で恒例の帰国隊員報告会を開催しました。今回は、シニア海外ボランティアOB・佐久間雅義さん（今年3月帰国）と青年海外協力隊OG・柳綾子さん（昨年3月帰国）の2人から、現地での生活や活動の経験を報告して頂きました。

最後に、決算報告書をご覧戴くとお分かりになると思いますが、昨年度の会計は単年度としましては赤字です。会の運営は会員の皆様が納める会費で賄われていますが、毎年会費収入が減少している現状です。会員の皆様におかれましては、更新のご案内が届きましたら可及的早期に手続きをしていただき、お一人お一人がご友人・知人等をお誘い合わせにて会員数を増やしていただき、会の運営にご協力いただきます様、重ねてお願いを申し上げます。

また、今年度より、広告協賛社を募集しています。1年間、会報紙「なじらね.jp」とホームページに広告を掲載し、たったの1万円です。参考までに、「なじらね.jp」第5号・8ページをご覧下さいませ。

最後に、当会と新潟県青年海外協力協会の共催により行なった懇親会には、40名以上の参加者がありました。恒例の？マジックショーもあり、とても賑わいました。来年もまた、このような楽しい交流の場を催したいと思います。

（文：横山 容司郎 ／ 写真：山田 規央）

平山会長あいさつ

総会の様子

事務局による司会

村山氏の講演

SV佐久間OBの報告

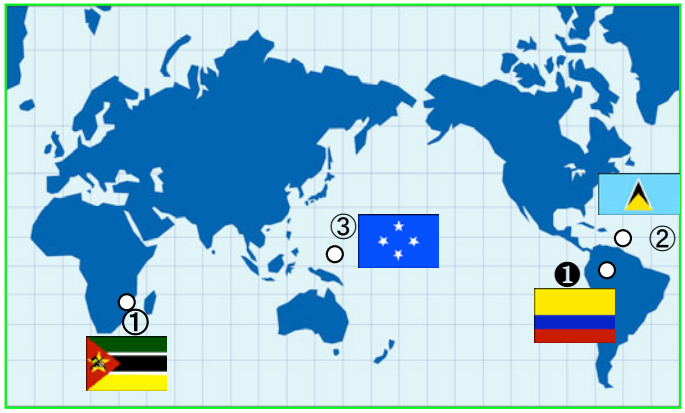
JOCV柳OGの報告

【弐】　本県出身のJICAボランティア（青年海外協力隊＆シニア海外ボランティア）平成22年度4次隊(H22-4)、平成23年度1次隊(H23-1)が任国へ赴任！

本県出身の青年海外協力隊(JOCV)・シニア海外ボランティア(SV)、平成22年度4次隊（H22-4）の新隊員4名（JOCV 3名＋SV 1名）が平成23年3月下旬に、平成23年度1次隊（H23-1）の新隊員8名（JOCV 8名）が平成23年3月下旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は訓練所での約70日間の派遣前訓練終了後に本県に帰郷し、それぞれ3月15日、6月13日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない、両日共に当会からは横山事務局長が同伴致しました。これに併せて、各訪問日の最近に帰国した本県出身のH20-3およびH20-4の帰国隊員の内、ぞれぞれ2名（JOCV 2名）および1名（SV 1名）も同行し、帰国報告を行ないました。毎回の表敬訪問に併せて新潟県青年海外協力協会（JOCA新潟）と共催で実施している新隊員壮行会＆帰国隊員慰労会は、3月11日に発災した東日本大震災を考慮し、3月に関しては中止致しました。当会としては、任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように取り組んでいきます。各隊員の紹介と抱負は次の通りです。

新隊員(H22-4)	任国	職種	
J-①小林 洋三 さん	モザンビーク共和国	PCインストラクター	2年間と短い期間ですが、初心を忘れずに頑張ってきます。
J-②佐藤 源 さん	セントルシア	理学療法士	とりあえず無事で生きて帰ってきます。
J-③関 千鶴 さん	ミクロネシア連邦	村落開発普及員	大学で学んだ栄養学の知識を活かして地域密着活動を行なえればと思います。
S-❶岸本 茂徳 さん	コロンビア共和国	野菜栽培	

帰国隊員(H20-3)　J-●田村 美由紀 さん（スリランカ民主社会主義共和国／青少年活動）
J-●西川 真里生 さん（ガーナ共和国／村落開発普及員）



新隊員(H23-1)	任国	職種	
J-①青木 太郎 さん	ナミビア共和国	小学校教諭	生きて帰ってきます！
J-②池田 知世 さん	フィジー諸島共和国	理数科教師	いつも通り、元気よく頑張りたいと思います。
J-③江端 菜々子 さん	マラウイ共和国	村落開発普及員	マラウイ人と共に元気に活動していきたいです。
J-④大川 恵理子 さん	ネパール連邦民主共和国	村落開発普及員	色々なものを吸収し、たくましい女になって帰ってきたいと思います。
J-⑤大平 朋代 さん	セネガル共和国	感染症対策	住民との信頼関係をしっかりと築き、活動していきたいと思います。
J-⑥佐藤 育美 さん	キリバス共和国	助産師	キリバス人と考え、健康改善の活動を一緒に進めていきたいです。
J-⑦相馬 葉 さん	タンザニア連合共和国	生態調査	今回与えられた機会に感謝して、精一杯やってきます。
J-⑧山岡 七恵 さん	ウガンダ共和国	養護	学校の先生と協力して子どもたちのために一生懸命やってきたいです。

帰国隊員(H20-4)　S-●佐久間雅義さん（タイ王国／パルプ・製紙）

（文：山田 規央 ／ 写真：佐脇奈都代、横山容司郎）

【参】　JICAボランティア（派遣中、帰国隊員）からのメッセージ

原山 一志　Mr. Kazushi Harayama , JOCV
（ 平成21年度3次隊 ／ コロンビア共和国 ／ 料理 ）

Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところですか？
任地アルメニアは常春でのんびりした田舎の街である　治安も良く、おいしい南国果物とコロンビア産のコーヒーを飲んでくつろげる場所である。老後に住むなら快適な場所である。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？
日本以上に格差社会で貧富の差が激しい　食べ物は肉食中心であるが米も主食として食べる。しかしコロンビア人は辛いものは苦手で食べない。

Q3;あなたはどんな活動をしていますか？
日々修行の毎日　また国立職業訓練校で日本料理、アジア料理の指南役を仰せつかっております。

Q4;これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？
東北関東大震災の日から約1週間くらい、同僚、生徒、近所の方々に日本の家族、友人の心配をされたこと、また多くの他の都市の友人たちから多くの、電話･メールで問い合わせが来たこと。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。
日々の修行と残りの時間でコロンビアのまだ知らない文化を学ぶこと。

My Life, My Work
Colombia

【さまざまな生活文化ルポ ②】 ～任国の “服” ～
リポーター：本田 龍輔 Mr. Ryusuke Honda , JOCV
平成２１年度３次隊 ／ パプアニューギニア独立国 ／ 村落開発普及員

"シンシン" "ラプラプ" From PNG

私の任地、東ニューブリテン州ではラプラプという巻きスカートが有名。ラプラプとは現地語で「布」という意味でその名の通り、本当にただの布。男性は、それを腰に巻いてベルトで締めるのが一般的である。女性は、メリーブラウスと呼ばれるワンピースにラプラプを合わせて巻いている。マーケットなどに行くと、プリントされたものから柄物まで種類は豊富にあり、だいたい200～400円くらいで手に入る。村に行くと、このラプラプ一枚で過ごしているおじさんもいるが、これがまたなんともサマになっている。私も自分でラプラプを買って巻いてみたが、どうもしっくりこない。現地人のようにボテッと出たお腹が必要なのだと理解した。ピシッとしたワイシャツにラプラプを巻くのがこちらの正装スタイル。一見、変な組み合わせだが、これもなかなか格好いいのである。

PNGには約800もの部族が存在し、それぞれが異なる伝統的な踊りを持っている。これはシンシンと呼ばれているが、英語のsing(歌う)を重ねたもの。もちろん、東ニューブリテン州では、シンシンの時もラプラプが衣装である。ラプラプの色も部族によって赤、黒、青、黄色と様々。彼らの黒い肌には、原色のラプラプが良く映える。

この伝統的なラプラプも、近年では町で巻いている人を見ることが少なくなった。町が発展するにつれ、町には大量の中国製の服が出回り、今では多くの人がTシャツにデニムといった格好で過ごしている。これも時代の流れなのか、ラプラプは日常的な服装ではなくなってきたようだ。しかし、町のマーケットやスーパーからラプラプが消えることはない。元々、お祭りで行われるシンシンは、部族間の友好を図ること、自分達の伝統を残すことを目的としていた。彼らの「自分達の文化を残そう」という想いがある限り、ラプラプも人々の生活から消えることなく、パプアの人々を色鮮やかに彩り続けるだろう。

←トーライ族のシンシン

→ マーケットで売られているラプラプ

Native Culture

朝川 雅子　Ms. Masako Asakawa , SV

（ 平成21年度4次隊 ／ インドネシア共和国 ／ ジュエリーデザイン ）

Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

私は、派遣前にインドネシアを訪ねた経験はありませんでしたが、17年程前に、長岡でインドネシア人留学生のホームスティ受け入れを行ったことから、身近な国に感じていました。私の住むジョグジャカルタ（通称、ジョグジャ）は、王宮のある古都で、ボルブドゥールやプランバナンという世界遺産の寺院が在ります。どちらも街の中心地からバスで1時間以内で行けます。ジャワ島のバティック(ろうけつ染め)は、世界遺産に登録されていて、正装や、普段使いにもバティックのシャツが着られています。ジョグジャにも伝統的な絵柄が在り、有名です。ジョグジャは、治安は良く、犯罪の少ない街です。以前、うっかりハンカチをバス停に落とした際、戻るとハンカチを目のつくところに掛けて干して置いてくれました。人々はプライド高く、ゆったりとしています。中心部には坂が少ないので、自転車でどこにでも行くことができます。日常の通勤・買い物・街散策を自転車で楽しんでいます。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

日常品の物価は安いです。レストランでは、地元料理は、200ルピー(約200円以下)で、ジャカルタやバリの半額程で食事をすることができます。イスラム教徒が人口の88.6%を占めるインドネシア。8月1日から1ヵ月間、ラマダン(断食)が行われています(8月6日現在)。その間殆どの飲食店は閉まっています。イスラム教徒は、食べ物だけではなく水も摂らないので、傍らで見ているだけですが辛く感じます。驚いた事の一つに、子供がバイクに乗っていることが挙げられます。この国の交通事情としては、目的地に早く、安く着けるので、バイクはバスよりも重宝されています。それに、バイクを買うためのローンが安い為、人気が在ります。運転免許証は、17歳で取得できますが、試験を受ける方法を3,000円程で買うこともできるのだそうで、それを容認している警察と大人たちに驚きます。

Q3;あなたはどんな活動をしていますか？

手工芸・バティックセンター内のジュエリー課で、スタッフにジュエリー・デザインと制作を指導しています。ジョグジャカルタには、コタグデという銀細工の地域が在り、銀の細い線を細工した作品が有名ですが、今は、数社を除いては活気が在りません。私の配属先は、そこを盛り上げるための機関ですが、ジュエリー課はジュエリーの専門外の人達で構成されていて、デザインセンスが高いスタッフも居ますが、仕事に対するプロ意識が低いので、スタッフの意識とスキルを高める為に活動しています。今は、配属先の関連学校から3名の女子高生が1カ月の研修に来ていますので、基礎から指導しています。ラマダン期間ですが集中力があるので、彼女たちがどの位までジュエリー作りを修得してくれるかが楽しみです。

Q4;これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったことは、スケッチや、デザイン経験の少ないスタッフが、自信が無いことから、当初は描いたスケッチを見せてくれなかったのですが、今は、面白いアイデアを時々見せてせてくれるようになったこと。辛かったことは、日本の震災をテレビで知った時。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

今まで配属先から予算が下りなかった為、スタッフが作ってきたWAX(蝋型)をシルバーに鋳造する事が出来なかったのですが、これから鋳造が行われ金属に変われば、各自の仕事を見直すことにもなるので、制作意識が上がることを期待しています。生活面では、週末を利用して国内をバス旅行したいと思います。国土の広いインドネシアの各地を少しづつ知りたいと思います。

齋藤 華菜子　Ms. Kanako Saito , Old JOCV
（ 平成21年度1次隊 ／ 村落開発普及員 ／ ガーナ共和国 ）

Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？
ガーナは「自分とは一体何者か」という問いの答えを、与えてくれる場所でした。2年間のガーナ生活で起きた事全てに対する反応は、「日本人」の私ゆえの反応であり、こんなにも日本人であることを強く意識した時はありませんでした。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？
日本に比べたらかなり貧しいですが、現地の人たちはそれをあるがままの自分の生活として受け入れています。先進国で「アフリカの貧困」と騒がれていますが、それはあくまで豊かな先進国から見た意見であって、彼らはとても良く喧嘩し、よく笑い、日本よりよほど健康的で、幸せそうでした。

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？
ガーナのローカルNGOで活動をしていました。主な活動は小学生にバスケットや算数、日本文化を教え、マラリア感染予防プロジェクトでは新潟アルビレックスBB様から支援を受け、432個の蚊帳を配布。また「小さなハート」を利用してバスケットコートを修復しました。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？
嬉しかった事は、子供たちが「お母さん」と言って慕ってくれたこと。
辛かった事は、アジア人軽視によるセクハラや言動。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。
今後は小学校の先生を目指し、シュウカツの後にコンカツをしたいと思っています。

石垣 稔　Mr. Minoru Ishigaki , Old JOCV　／　New SV
（ 平成4年度3次隊 ／ 水産物加工 ／ フィリピン共和国 ）
（ 平成23年度2次隊 ／ 水産物加工 ／ フィジー諸島共和国 SV派遣 ） ※

4月にがれき撤去や、宮城県内4町でWFP（国連世界食糧計画）の巨大テントを6棟、簡易事務所6棟を3.11の津波から生還した青年と建てました。最初に彼からのお礼と決意のメールを抜粋します。
「今回の震災で知人や友達がなくなったのですが、その悲しみで流す涙より、こうしてRQ（参加したNPOの略称）だったり、各地域のボランティアの人たちが遠方から来て必死に作業していることに対して感動して流す涙の方が多かったです。自然に笑顔がこぼれてくる、いるだけで元気がもらえる現場でした。まだまだ、長い道のりですが、私自身もっともっと地域に貢献できるよう考え頑張ります。」
この時の活動が載っています（ http://www.youtube.com/watch?v=kRMe1u42BbE ）

私のようなフリーター、学校が始まらない学生、うつ病の治療を受けている人、ニートや学校に行ったことない人などボランティアは色々なキャラが集まりました。ランタンを囲む夜は昼間の緊張から解きほぐされて一歩踏み出した自分を語ってくれました。現在のボランティア活動は復興から心のケアーへ移行中です。被災者だけでなく、ボランティアも心を癒された現場でした。

JOCA（青年海外協力協会）のボランティアとして7月は岩沼市で拾得物管理をしました。ボラセン（社会福祉協議会のボランティアセンター）から派遣される一般ボランティアと岩沼市の調整や、貴重品をまとめて警察への届出をしました。ボラセンから派遣された人たちは写真の洗浄、展示、広報、デジタル化をしていました。地味で根気のいる作業なのに遠方から来るリピーターも多く、彼らの意欲に頭が下がります。8月は阿賀町の4地区で水害後の泥出しをしました。150～250人のほとんどの人が県内の社協などの団体で、個人参加は1割位でした。狭い軒下で暑さも重なり肉体的にきつい作業でしたが達成感を味わいました。

お盆明けから気仙沼で再びRQのボランティアとして活動します。9月下旬からはシニア海外ボランティアとしてフィジーに行き、南太平洋大学で水産物加工の指導をします。復興と技術支援の違いはありますが笑顔を届けられればと思っています。

（※石垣さんは9月末にフィジーへ発たれました。）

【四】　国際協力機構(JICA) X 新潟医療福祉大学大学院 連携 青年海外協力隊等プログラム（日本初）のご案内

平成24年度より、新潟医療福祉大学大学院ではJICAと連携し、JICAボランティアを対象とした大学院教育を行なう本邦初のプログラムを開設します。本プログラムは、JICAボランティアとして活動しながら同時に修士号の学位取得を目指しますが、国際協力現場での実践を通して、国際保健協力に関わる人材としての資質・能力を高めることを目的としています。

特色

・現地活動中も教員の指導を受け、帰国後に現地での体験、実践を通じて得られた気づき、課題等を課題研究としてまとめることで修士の学位が取得できる。
・赴任する前(後)に、途上国の保健課題に対する対策の計画・実施についての実践的な演習を行なうことで、効果的な国際保健協力のスキルを向上させることができる。
・在学生、修了生、協力隊経験者とのネットワークを作りそれを活かした演習を行なうことで、赴任中の業務や、派遣後の進路を考える上で、他者の経験を参考にすることができる。

取得できる学位

・修士(保健学)
　保健学専攻(理学療法学分野、作業療法学分野、言語聴覚学分野、義肢装具自立支援学分野)
・修士(健康科学)
　健康科学専攻(健康栄養学分野、看護学分野、健康スポーツ学分野)
・修士(社会福祉学)
　社会福祉学専攻(保健医療福祉政策・計画・運営分野、保健医療福祉マネジメント学分野)

募集条件

・定員　修士課程　若干名
・JICAボランティア(青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティア、海外派遣期間8週間以上の短期ボランティア)の募集選考を受験し、合格していること。(3または4次隊)
・期待される受験生
　国際協力活動と大学院進学の両方を志望する学部卒業生。
　国内での経験を海外で活用しながら学位取得を目指す専門職。
　国際協力に関心があり、さらに知識、技術を高めて国際協力活動を行おうとする者。
　より効果的な国際協力を求めて再度海外での活動を希望する国際協力実務経験者等。

入試

　青年海外協力隊等特別入試　面接のみ

大学院の特徴

・昼夜開講制、長期履修制度により働きながらの通学も可能。
・学士のない方にも出願の機会を認める制度があります。
・大学院独自の奨学金制度もあります。
・教育機関としては日本で唯一、生活習慣病対策のJICA研修員(南大洋州諸国)を受け入れています。

＜お問い合わせ＆資料請求＞

新潟医療福祉大学大学院　〒950-3198　新潟市北区島見町1398番地
電話　025-257-4455　／　FAX　025-257-4456
E-mail；　nyuusi@nuhw.ac.jp　／　URL；　http://nuhw.co.jp

（文：山田 規央）

【五】　2012年版カレンダー販売のご案内

(社)協力隊を育てる会では 2012年版カレンダーを制作しました。今年は「立ち上がれ、NIPPON」をテーマに、東日本大震災の被害に遭われた方々に”元気”を届けられるような隊員派遣国のカットを掲載いたしました。

このカレンダーに、当会と新潟県青年海外協力協会の名を併記し、共同で販売を致します。ご希望の方は、当会事務局までご連絡下さい(連絡先は本紙1頁参照)。

●仕様：壁掛け型、見開き 縦390×横297mm・上面・写真／下面・暦(書込み可)
●価格(単価)：700円、3部以上で500円　※送料は当会負担
●購入方法：(1)当会にお申し込み、郵送後、同封の用紙でご入金。
　(2)当会指定口座へ入金確認後、1週間程で郵送(部数を明記)。
　(3)当会事務局に直接お買い求めいただく。
●入金先：【名称】 にいがた青年海外協力隊を育てる会
　【口座番号】 ゆうちょ銀行の振替 ⇒ 口座番号　00520−3−100489
　他行から振込 ⇒ ゆうちょ銀行　059店、当座　0100489

（カレンダー表紙）

（文：山田 規央）

- INFORMATION -

1．JICAボランティア平成23年度秋募集のご案内

平成23年10月1日(土)～11月7日(月)の期間、青年海外協力隊(JOCV／20–39歳)・シニア海外ボランティア(SV／40–69歳)の募集が行なわれます。

詳しくは、下記へご連絡またはJICA公式HPでご確認下さい。→　http://www.jica.go.jp

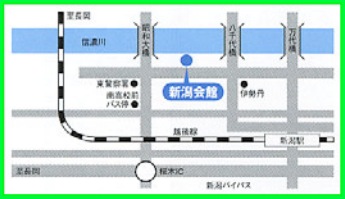
【お問い合わせ】JICA新潟デスク・佐脇　Tel. 025-290-5650 ／ Fax. 025-249-8122

2．平成23年度JICAボランティア家族連絡会のご案内

日時：平成23年11月5日(土)、13：00より

会場：新潟会館（新潟市中央区幸西3-3-1、Tel.025-247-9307）　→

内容：JICAボランティア事業説明、帰国隊員報告会、
懇親会(お一人4千円)　※お誘い合わせ可能です。



新潟会館HPより引用
（http://www.niigata-kaikan.com）

3．本紙および公式HPでの協賛広告掲載のご案内

総会報告の記事でも紹介しましたが、当会の主要広報手段である、会報紙とホームページを活用して、広告協賛社の募集を行なっています。

掲載媒体：会報紙「なじらね.jp」（年2回程度発行）、公式ホームページ　／　掲載料：年間1万円

4．団体および個人会員の募集のご案内

当会では平素より個人の入会を受け付けておりますが、学校や企業等の団体会員についても広く受け付けております。入会後、メールマガジンの配信、「クロスロード」「育てる会ニュース」（毎月）、「なじらね.jp」（春・秋）が郵送されます。学校や企業のライブラリーに置いてみませんか？

年会費：団体　１万円　、個人　５千円

※上記２、３、４の【お問い合わせ】は当会事務局（本紙1頁参照）まで

当会では新潟県青年海外協力協会と共催で年4回、新潟県から派遣される新隊員の壮行会と新潟に帰国した隊員の慰労会を開催しています（新潟駅前にて）。 みなさんで隊員たちを激励し、新潟から送り出しましょう！！

茶話会

壮行会

※H22-4では、大震災を考慮し、壮行会の予定を中止しました。

※会員への壮行会開催のご案内は随時、メールマガジンでのみ行なっております（開催時期：3月、6月、9月、12月の各中旬）。

（写真：横山 容司郎 ／ 佐脇 奈都代）

＊協賛広告を受け付けます＊

私達は新潟から青年海外協力隊を
応援しています！
金属加工のことならABCにお任せ下さい

相場産業株式会社
〒955-0814
新潟県三条市金子新田1691-5
Tel.0256-35-7460, Fax.0256-35-7462
URL　http://www.abc-tool.co.jp

壊れた自転車は、電話一本でOK！
出張修理専門
(新潟駅南地区限定)

動く自転車屋
森田 敏明
〒950-0941
新潟県新潟市中央区女池7-10-3
Mobile 090-9009-4709
URL　http://www.jcr-niigata.com

感動と夢、そして感謝

21世紀の生涯学習を推進する
株式会社アルファブライト
〒950-2012
新潟県新潟市西区小針台1-15
Tel.025-234-1000, Fax.025-234-1002
URL　http://www.alpha-bright.co.jp

にいがた青年海外協力隊を育てる会
The supporting Organization of JOCV NIIGATA

สวัสดีครับ（サワッディークラップ）　あの大震災・津波から早くも半年が過ぎ、この間、私自身も可能な範囲で何回か被災者支援の活動に携わらせて頂きました。この不幸な自然災害を機に、”ボランティア”に対する国民的関心は高まっているように思います。今後も、自分に出来る事を考えながら身の丈に合ったボランティア活動を実践していこうと思います。

by พริกไทย（プリックタイ）